

緊急被ばく医療に強い救急総合医養成拠点

実施機関：福井大学（総括責任者：眞弓 光文）

実施期間：平成 21～25 年度

プロジェクトの概要

福井大学（医学部及び医学部附属病院）と緊急被ばく医療体制の更なる充実が必要な敦賀市（市立敦賀病院）の連携による新しい医師養成システムを形成し、救急診療、総合診療、緊急被ばく医療の3領域に精通した「緊急被ばく医療に強い救急総合医」を創出するため、緊急被ばく医療の専門医養成コース（3年間）と指導医養成コース（2年間）の2段階において、既存の救急診療教育カリキュラム、総合診療教育カリキュラムに、緊急被ばく医療カリキュラムを上乗せするスタイルで、多施設をローテーションして研修を行うプログラムを立ち上げる。専門医養成コースの修了者（3年目終了時以降、毎年4名）は市立敦賀病院における救急総合診療及び敦賀市の緊急被ばく医療のリーダーとなることを目標とし、指導医養成コースの修了者（5年目終了時以降、毎年2名）は敦賀市のみならず福井県全体のリーダーとなり、他の道県の教育にも参画できることを目標とする。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
S	a	s	a	s	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

緊急被ばく医療は救急医療とともに福井県の地域医療の根幹をなすものであり、各種の医療専門職者の緊密な連携を必要とする領域である。本プロジェクトは、福島原発事故対応での研修生の活躍ばかりではなく、地元の救急医療体制の改善や緊急被ばく医療アドバイザーとして有事の際に地域行政へ参画する仕組の構築等に大きく貢献しているなど、高く評価できる。今後は、医療をチームワークによって支える各種の医療専門職者を継続的に養成しながら、多様な災害にも対応できるような波及努力を期待する。

- ・**目標達成度**：緊急被ばく医療に強い3年コースの専門医12名と5年コースの指導医2名という養成目標数の修了者を輩出した点は、修了者が養成目標に相応しい活躍をしていることとともに評価できる。
- ・**人材養成手法の妥当性**：シミュレーション実習を主体とする実践的人材養成手法は、豊富な臨床経験を通しての救急総合診療医としての診療能力の担保、原子力関連施設での外部研修、海外研修、福井県原子力防災訓練への参加、及び福島第一原子力発電所での実地研修等を併い、さらに看護師、放射線技師等の医療専門職者を育成していることと併せ、妥当であり、高く評価できる。

・**実施体制・自治体等との連携**：市立敦賀病院との教育連携、修了者の就職を通しての他病院・他大学との密接な連携、福井大学福井メディカルシミュレーションセンター建設に対する福井県の補助など、地域自治体と大学との実効的な連携は評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：受講者が実地研修を兼ねて福島第一原子力発電事故における緊急被ばく医療の初動体制の確立と現場での初期治療に関わった点、また、修了者が被ばく医療支援を継続していることを含めて、修了者の大部分が救急総合診療医として地元で活躍するだけでなく、緊急被ばく医療専門アドバイザーなど緊急被ばく医療に関わる啓蒙活動を行っていることなどは、高く評価できる。

・**継続性・発展性**の見通し：原子力事業者、自治体、各種団体との協力関係を構築し、医療専門職者への教育拡大を含めて引き続き本プロジェクトを継続していく方針の下、福井大学福井メディカルシミュレーションセンターを設立、活用し、「地（知）の拠点整備事業（大学 COC 事業）」での継続が決定していることは高く評価できる。今後は、地域の救急医療・総合医療にも対応できる人材層を一層拡充することとともに、弘前大学、福島県立医科大学等との連携を進めながら、緊急被ばく医療の全国的な拠点に成長することを期待する。

・**中間評価の反映**：被ばく医療に強い実践的な臨床医に加えて、看護師等の他職種の育成も重要という中間評価の指摘に応じて、福井大学大学院に災害看護専門看護師教育課程が開講された点などは評価できる。